

南山大学人類学博物館

年 報

2008 年度

南山大学人類学博物館

目次

1. 2008年度の人類学博物館の活動	1
(1) オープンリサーチセンターの活動	1
①研究会	2
②シンポジウム	4
③その他	4
(2) 教育普及活動	5
①展示	5
②講座	6
③講演会	7
④連携授業	7
⑤博物館実習	8
(3) 調査・研究活動	8
①調査出張	8
②博物館セミナー	8
(4) 資料の収集・整備と利用	9
①受贈資料	9
②資料修復	9
③館内の燻蒸	9
④購入図書	9
⑤受贈図書数	9
⑥資料貸出	9
⑦取材・調査のための来館者一覧	9
⑧撮影・刊行物への掲載	10
⑨当館紹介刊行物一覧	11
(5) 出版活動	11
2. 組織と運営	12
(1) 組織	12
(2) 開館・入館者実績	12
①開館日数・入館者数	12
②入館団体内訳	12
3. 規程	15

1. 2008年度の人類学博物館の活動

(1) オープンリサーチセンターの活動

2008年度はオープンリサーチセンターの活動も3年目となり、折り返し点にさしかかった。活動の具体的な内容について、以下に記していきたい。なお、詳細については『南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター2008年度年次報告書』を参照されたい。

【博物館部会】

博物館部会では、12月に昨年と同様、展示に関する公開実験を実施した。今回は、照明だけでなく、展示ケース内のクロスもオフホワイトの色調に替え、より照明の効果が出やすい環境を設定しておこなった。実験に際しては、60名ほどの被験者を対象としてアンケート調査を行い、その集計に基づいて、1月10日にシンポジウムを実施した。

また、収蔵環境についても、年間を通して温湿度の計測を行い、また、館内に設けられた密閉空間において、吸湿材の性能実験もあわせて行っている。

さらに、収蔵庫内のカビの胞子の浮遊状況を調べるため、収蔵庫内の空気のサンプリングを行い、その結果を受けて酵素殺菌フィルターを取り付けた空気清浄機を一ヶ月間稼働させることで、カビ胞子の除去状況を測定した。

【情報部会】

情報部会では、引き続き、博物館資料のデータベースの構築を行っている。

今年度はさらに、データベースにアノテーション機能をつけて、その効果について実験的にアンケート調査を行った。

【歴史部会】

歴史部会では、国立民族学博物館の吉田憲司氏を招き、民族誌展示の抱える問題点についての研究会を実施した。

また、歴史展示における表象の問題について、いくつかの博物館を見学し、様々な表象のあり方について意見交換をした。見学したのは呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）、海上自衛隊呉史料館、広島平和記念資料館、広島県立歴史博物館である。

【旧石器部会】

マリンガー資料の写真撮影を行い、図化作業を継続した。

また、関連資料の調査のため、フランスでの資料調査を実施した。

【縄文部会】

人類学博物館収蔵の愛知県保美貝塚出土資料の整理作業を継続している。

また、7月19日に「東海地方突帯文土器研究の最前線—突帯文土器の「さいはて」を如何に捉えるか—」と題した公開研究会を実施している。

【弥生部会】

人類学博物館収蔵の名古屋市高蔵遺跡出土資料について、再図化作業を行なっている。

また、5月18日に「農耕社会の多角的研究3 社会の階層化・複雑化」と題した公開研究会を実施している。

【東アジア部会】

米軍撮影による愛知県内の空中写真の購入と幾何補正が終了した。

また、「大須二子山古墳と東アジア」と題した公開研究会を6月21日に開催している。

これらの研究によって、その規模に諸説あった大須二子山古墳が、ほぼ100m超であることが明らかとなり、大きな成果をあげた。

【人類学部会】

人類学部会では、8月に第2回目のタイ西北部における山地民調査を実施した。その報告は、10月18日に「タイ西北部の山地民ユーミン（ヤオ）族社会の変化」と題した公開研究会においてなされた。

また、今年度は、ニューギニアについても研究会を開催しているが、これは今後も継続して行く予定である。

なお、各研究会・シンポジウムのプログラムと参加者数は以下のとおり。

① 研究会

1) 弥生部会公開研究会「農耕社会の多角的研究3 社会の階層化・複雑化」

日時：2008年5月18日（日） 10:30～18:00

場所：名古屋キャンパス B棟 4階 B47教室

基調報告：若林邦彦氏（同志社大学）「弥生社会複雑化のベクトル」

後藤 明氏（南山大学）「基調報告に対するコメント」

報告1：樋上 昇氏（愛知県埋蔵文化財センター）

「木製品からみた社会の複雑化・階層化」

報告2：石村 智氏（奈良文化財研究所）

「威信財交換と首長制ーフィジー・トンガ・サモアにおける民族誌時代の事例ー」

報告3：黒沢 浩氏（南山大学）「3世紀の日本列島」

報告4：角南聡一郎氏（元興寺文化財研究所）「台湾の墓から見た社会」

報告5：渡部森哉氏（南山大学）「アンデスにおける社会の複雑化」

報告6：金子守恵氏（京都大学）「アフリカの職業分化からみた社会」

大西秀之氏（同志社女子大学）「金子報告に対するコメント」

参加者：41名

2) 縄文部会公開研究会「東海地方突帯文土器研究の最前線ー突帯文土器の「さいはて」を如何に捉えるかー」

日時：2008年7月19日（土） 11:00～17:00

場所：名古屋キャンパス B棟 4階 B47教室

報告1：増子康真氏（名古屋考古学会）「愛知県の縄文時代晩期後半土器編年の展望」

報告2：佐野 元氏（瀬戸市役所）・松本泰典氏（小牧市埋蔵文化財発掘調査員）

「列島中部の突帯文土器ー西之山式・五貫森式を中心としてー」

報告 3：永井宏幸氏（愛知県埋蔵文化財センター）「馬見塚式を考える」
報告 4：豆谷和之氏（田原本町教育委員会）「馬見塚 F 地点型壺形土器の再考」
紙上コメント 1：宮地聡一郎氏（福岡県立アジア文化交流センター）
「突帯文土器の成立と展開及び地域性の構造的理解にむけて」
紙上コメント 2：中沢道彦氏（早稲田大学先史考古学研究所）
「飛騨における縄文時代晩期後半土器編年について」
参加者：44 名

3) 人類学部会公開研究会「タイ西北部の山地民ユーミエン（ヤオ）族社会の変化」
日時：2008 年 10 月 18 日(土) 13:00～17:30
場所：名古屋キャンパス D 棟 3 階 D33 教室
報告 1：竹野富之氏（東海学園大学非常勤講師）「家屋と村落の景観」
報告 2：森部 一氏（南山大学）「村落の現状と変化」
講演：速水洋子氏（京都大学東南アジア研究所）
「北部タイにおける山地民族と多文化主義」
参加者：5 名

4) 人類学部会公開研究会「パプア・ニューギニアの物質文化」
日時：2009 年 1 月 25 日(日) 10:00～17:00
場所：名古屋キャンパス人類学博物館展示室、B 棟 4 階 B47 教室
基調講演：早川正一氏（南山大学名誉教授）「昭和 39 年、ニューギニア調査の再考と課題」
報告 1：原田 幹氏（愛知県教育委員会）・黒沢 浩氏（南山大学）
「民族資料の考古学的研究－ニューギニアの石斧、その使用痕分析」
報告 2：吉田裕彦氏（天理参考館）「天理参考館所蔵のニューギニア資料」
報告 3：高橋龍三郎氏（早稲田大学）「ニューギニアの民族考古学調査」
報告 4：後藤 明氏（南山大学）「ニューギニア民族資料の記述」
討議：民族資料研究の方向性
参加者：21 名

5) 歴史部会公開研究会「異文化を展示する」
日時：2009 年 1 月 31 日(土) 13:30～17:00
場所：名古屋キャンパス B 棟 4 階 B47 教室
基調講演：吉田憲司氏（国立民族学博物館）「異文化展示の現在 2009」
コメント 1：永井英治氏（南山大学）「異文化への視点－前近代史の視点から－」
コメント 2：松田京子氏（南山大学）「共同作業としての『展示』をめぐる」

参加者：11名

② シンポジウム

1) 東アジア部会シンポジウム「大須二子山古墳と東アジア」

日時：2008年6月21日（土） 9:30～17:30

場所：名古屋キャンパス B棟 2階 B21教室

主旨説明：西江清高氏（南山大学人文学部）

報告1：原 久仁子氏（多治見市文化財保護センター）

「戦中・戦後の航空写真と大須二子山古墳」

報告2：渡部展也氏（中部大学人文学部）「GISを利用した東海地方古墳分布の検討」

報告3：藤井康隆氏（名古屋市教育委員会文化財保護室）

「埴輪からさぐる大須二子山古墳の築造時期・葬祭・階層」

報告4：澤村雄一郎氏（飛騨市教育委員会）「大須二子山古墳の馬具を検討する」

報告5：森川祐輔氏（立命館大学大学院）「大須二子山古墳の甲冑—小札甲を中心に—」

報告6：蘇 哲氏（金城大学社会福祉学部）

「大須二子山古墳金銅装裯襜褕の持つ意味—五胡十六国・南北朝甲冑との関係を中心に—」

報告7：伊藤秋男氏（南山大学名誉教授）「大須二子山古墳出土の青銅鏡」

参加者：115名

2) 博物館部会シンポジウム「博物館を魅せる技術」

日時：2009年1月10日（土） 10:30～17:30

場所：名古屋キャンパス B棟 2階 B21教室

基調講演：端 信行氏（日本展示学会会長）「博物館展示の魅力」

基調報告1：アッセマ庸代氏（南山大学）「実験結果報告」

基調報告2：中沢文三氏（丹青研究所）・藤原 工氏（パナソニック電工）「照明1」

基調報告3：土井智子氏（ヤマギワ照明）「照明2」

基調報告4：吉岡健介氏（日油）「低反射フィルム」

基調報告5：吉留美津久氏（川島織物セルコン）「クロス」

コメント：井口智子氏（名古屋ボストン美術館）・里見親幸氏（丹青研究所）・小池富雄氏（徳川美術館）・川合 剛氏（名古屋市博物館）

参加者：78名

③その他

1) 博物館部会「展示照明環境実験」

日時：2008年12月19日（金）、20日（土）
場所：名古屋キャンパス人類学博物館 第二展示室
参加者：75名

（2）教育普及活動

①展示

常設展示以外にも、特別展示・本学博物館実習生による企画展示を開催したほか、人類文化学科サガヤラージ、アントニサーミ（Sagayaraj, Antonysamy）ゼミ生によるフィールドワークの成果を展示する写真展を開催した。

1）特別展示

『G.グロート神父と日本考古学研究所』

会期：10月1日（水）～11月22日（土）

会場：名古屋キャンパス G 棟 人類学博物館第二展示室

期間中の入館者：1147名

今年度は、「G.グロート神父と日本考古学研究所」と題して、千葉縣市川市にかつて存在し、当館所蔵考古資料の多くを調査・収蔵していた日本考古学研究所に関する特別展を、10月1日から11月22日にかけて、市立市川考古博物館と神言修道会日本管区の協力を得て開催した。

本展示は市立市川考古博物館学芸員である領塚正浩氏の研究成果「ジェラード・グロート神父と日本考古学研究所～失われた考古学史を求めて～」(『鎌ヶ谷市史研究』第9号所収、1996年)に沿う形で、日本考古学研究所の設立者であるG.グロート神父の研究活動と、当館所蔵の主要な縄文時代遺跡出土資料である茨城県花輪台貝塚、千葉県二ツ木・姥山・中沢貝塚の関係を中心に、後に本学で教鞭をとり、旧石器時代資料を寄贈することになった二代目所長、J.マリンガー神父の業績も合わせて紹介する内容であった。

観覧者数・学内外の反響として、次の事項が特記される。本特別展期間中に日本考古学協会大会が南山大学で開催され、大会参加者の多くの観覧があった。神言会ハウスの會澤俊三氏からは、グロート神父が来日した直後の時期にまつわる情報の提供を受けた。英国・セインズベリー日本藝術研究所副所長のサイモン・ケイナー氏からは、本特別展に関する問い合わせがあり、展示風景の写真を数点提供した。

2）本学博物館実習生による企画展示

第1期：11月28日（金）～12月3日（水）

- ・『モンティエニコレクションに見る西洋の”まなざし”』
- ・『水害とたたかった只越村の人々～戸長役場資料を探って～』
- ・『不思議ランド Thailand－山地民の日常の嗜好性－』
- ・『大須二子山古墳の世界』

・『精霊と生きるーニューギニアの信仰』

第2期：12月12日（金）～12月17日（水）

・『メディアとしての絵葉書』

・『京絵図展～地図職人のミッション！京都観光都市化を成功させろ！！』

・『2つの文化 in ニューギニアー高地と低地ー』

・『海・陸・集落ー縄文時代の生活風景ー』

・『家電でみる女性の社会進出』

会場：名古屋キャンパス G 棟 人類学博物館第二展示室・人類学博物館ロビー

期間中の入館者：117名

3) 人類文化学科サガヤラージ, アントニサーミ (Sagayaraj, Antonysamy) ゼミによるフィールドワーク写真展

『写真から見るフィールドの風景』

会期：1月8日（木）～1月20日（火）

会場：名古屋キャンパス G 棟 人類学博物館ロビー

期間中の入館者：86名

②講座

博物館の本来的な機能である普及事業の一環として、本学の学生・大学院生のみならず学外の方々をも対象とし、博物館講座とフィールドワークを開催した。

博物館講座は当館に収蔵されているユニークかつ豊富な資料を前に専門的研究者の解説等を聞きながら、資料と博物館に対する理解を深めていただくことを目的としている。定員30名に対して23名の申し込みがあった。

フィールドワークは東海地方の考古学的な遺跡を現地で観察し、実感していただけるような機会を提供することを目的としている。観察する遺跡は、当館所蔵資料と関係の深い遺跡を中心に設定しており、現地で遺跡を観察することによって、当館の展示のより深い理解へと繋げる契機ともなっている。定員上限の10名の申し込みがあった。

1) 2008年度博物館講座『信仰のカタチ』

第1回 6月14日（土）

長田友也氏（南山大学非常勤講師）「縄文時代の信仰ーこころのイメージ」

第2回 6月28日（土）

クネヒト・ペトロ氏（元南山大学教授）

「土、木、紙に寄せられる東北の人々の信仰ごころ」

第3回 7月12日（土）

渡部森哉氏（南山大学人文学部講師）「古代アンデスにおける信仰」

第4回 7月26日（土）

坂井信三氏（南山大学人文学部教授）

「ブッシュの力が宿るモスクー西アフリカ・マリの伝統文化とイスラーム」

2) 2008年度フィールドワーク『東海の考古遺跡を歩く』

第1回 10月25日（土）事前指導 講師：黒沢 浩氏（南山大学准教授）

第2回 11月2日（日）不破関を歩く 現地講師：中井正幸氏（大垣市教育委員会）

第3回 11月16日（日）豊橋平野の遺跡 現地講師：岩瀬彰利氏（豊橋市教育委員会）

第4回 11月30日（日）常滑焼の世界 現地講師：中野晴久氏（常滑市民俗資料館）

第5回 12月6日（土）事後指導 講師：黒沢 浩氏

申込者数：10名

③講演会

博物館スタッフ・教職員・大学院生等を対象として、博物館の活動や運営に対する最新情報、人類学博物館に対するアドバイスをセミナーにおいていただいたが、同一講師による公開講演会を同日に開催した。講演会は学外の方々も対象に含めた、博物館資料と関連した研究内容を発表していただいた。

日時：5月22日（木） 18:00～19:30

講師：辻 秀人氏（東北学院大学教授）『大和王権と周縁域の諸問題』

要旨：日本列島において最初に成立した広域の政治的連合体である「大和王権」を東北、九州などの周縁域の視点から考え、大和と周縁域が取り結んだ関係を検討する。

参加者：36名

④連携授業

博物館の教育活動の一環として、高校生に対する博物館資料を使った実物教育を目的とした人類学博物館と名城大学附属高等学校との学習連携は3年目を迎えた。

今年度は、2年生を対象とした「異文化の理解」の授業の中で、人類学博物館収蔵のタイおよびニューギニアの民族資料を使い、異文化に対する関心と、理解するための方法を身につけることを目標とした。実物を触ったり、観察したりする機会を提供することのみならず、自分たちの手でテーマを掘り下げていく「調べ学習」に重点をおいた指導もおこなった。その成果をポスター発表の形式によって発表し、プレゼンテーションの難しさや楽しさを学ぶ機会を提供した。

連携授業は以下の日程でおこなった。

10月14日（火）博物館見学：どんなものがあるか？

10月21日（火）授業1 人類学博物館について 講師：黒沢 浩氏（南山大学准教授）

11月4日（火）授業2 タイ山地民について 講師：森部 一氏（南山大学教授）

11月11日（火）授業3 ニューギニアについて 講師：後藤 明氏（南山大学教授）

11月18日（火）博物館見学：実物を手にとってみる

11月25日（火）授業4 モノの見方、調べ方 講師：黒沢 浩氏

12月 9日（火）博物館見学：調べ学習

12月16日（火）成果報告：ポスター作成

ポスターは1月10日（土）のオープン・リサーチ・センター博物館部会シンポジウム「博物館を魅せる技術」の会場内でも掲示した。

⑤博物館実習

他大学からの学外博物館実習生受入れを実施しており、本年度は愛知教育大学から1名、愛知大学から1名を受入れた。

（3）調査・研究活動

①調査出張

1) 愛知県博物館協会総会

日時：6月19日（木）

内容：東京国立博物館事業部事業企画課デザイン室長の木下史青氏による講演会「Treasure Pleasure－博物館の楽しみ方」への参加。

出張者：木田 歩

2) マイソンカー（Mai Soong Kha）

日時：11月21日（金）

内容：当館所蔵「上智大学西北タイ歴史・文化調査団」コレクション資料のうち、その使用方法が不明な資料（JC-0559）について、本資料収集者であり寄贈者の上智大学名誉教授量博満氏と、今夏当該地域へ通訳として調査に参加した山田泰正氏に聞き取り調査を行った。

出張者：木田 歩

3) 東京国際交流館

日時：11月22日（土）

内容：独立行政法人科学技術機構主催の平成19年度地域科学技術理解増進活動推進事業「調査研究・モデル開発成果報告会」および「科学館開発支援成果報告会」への参加。

出張者：木田 歩

②研究活動

博物館セミナー

日時：5月22日（木）

講師・演題：辻 秀人氏（東北学院大学文学部教授）「博物館法改正の現状と問題点」

内容：教育基本法の改正を受け、文科省では関連する博物館法改正に向けて準備を進めている。その改正の内容を紹介し、問題点を検討する。

参加者：10名

（４）資料の収集・整備と利用

①受贈資料

1. 岩野一郎氏より、弁当箱 1 点。
2. 石黒義人氏より、カメラ 3 点、電卓 1 点。
3. 後藤明氏より、民族・考古コレクション 1 式。
4. 阿部泰明氏より、鏡台 1 点。
5. 埼玉県鶴ヶ島市より、オセアニア民族造形美術品 1 件（約 160 品）。

②資料修復

辻金具 2 点（群馬県内出土）、鉄鏝 21 点（愛知県名古屋市白山藪古墳出土）、鉄斧 1 点（兵庫県養父市内出土）、鉄鏝 1 点（愛知県名古屋市山の田古墳出土）。

③館内の燻蒸

8 月 28 日実施

④購入図書

48 冊

⑤受贈図書数

発掘調査報告書	一般図書・紀要・年報・図録・研究報告等	たより類
1137	693	374

⑥資料貸出

貸出先	資料名・点数	貸出期間	目的
北名古屋市歴史民俗資料館	鉄釜 3 点・皿 1 点	2008 年 6 月 19 日～10 月 8 日	「昭和 eco モノ語り」にて展示

⑦取材・調査のための来館者一覧

来館者名	資料名・点数	実施日
愛知県埋蔵文化財センター 城ヶ谷和広氏	犬山市蓮池 2 号墳出土資料	2008 年 8 月 2 日

松戸市教育委員会 峰村 篤氏	二ツ木向台遺跡・陣ヶ前遺跡・東平賀遺跡・後田遺跡・南道合遺跡・花輪台貝塚・稻荷台遺跡出土資料	2008年9月17日～ 2008年9月19日
愛媛大学大学院 土屋了介氏	竹並古墳出土貝輪4点	2008年10月15日
国立民族学博物館 塚田誠之氏	評皇券牒1点、家先単1点	2008年10月16日
愛知県教育委員会 原田 幹氏	ニューギニア磨製石斧15点	2009年2月2日

⑧撮影・他機関刊行物等への掲載

機関名	資料名	刊行物名等	備考
株式会社学習研究社	フランス ドルドーニュ出土石刃核1点・フランス マルスーラ出土石刃1点	『科学で見る世界史』	2008年4月22日刊行
風媒社	大須二子山古墳出土画文帯神獣鏡1点	『なごやの古代遺跡を歩く』	2008年7月刊行
株式会社バモスクルー	高蔵貝塚出土パレススタイル壺1点	マンション紹介のためのシアタービデオ	2008年7月1日より1年間
取手市教育委員会	ジェラード・グロート神父「中妻貝塚発掘略報」	「中妻貝塚の発掘～縄文時代の研究と中妻貝塚～」にてコピーを展示	2008年7月22日～9月19日
河出書房	鋳掛の痕跡のある釜2点	『昭和に学ぶ エコ生活～日本らしさにヒントを探る』	2008年8月刊行
ホモ・サピエンスの道具研究会	小鍬1点・鑿1点・穂つみ具1点・ばちんこ1点・うちわ1点・こま1点・錘1点・taro crusher1点・making fire1点・斧1点・手斧2点・磨石1点・鋺1点・手鍬1点・綿繰り機1	「カード：つなぐ器」にて写真を展示	2008年10月14日～2008年10月24日

	点・洗濯板 1 点・ミシン 1 点・ゲーム 1 点		
株式会社 雄山閣	大須二子山古墳出土 銀張刻み責金具を使う辻 金具 1 点	『季刊考古学』第 106 号	2009 年 1 月 20 日刊行
天理大学附属天 理参考館	「上智大学西北タイ歴 史・文化調査団」撮影写真 2 点	『モンスーンアジア の竹文化ー素朴な技 術と造形の美ー』展示 及び図録	2009 年 2 月 16 日～2009 年 3 月 28 日 2009 年 2 月刊行
有限会社 アート・エフ	二ツ木貝塚出土深鉢型土 器 1 点	『夏の生活 1・2 年用 社会』	2009 年 7 月刊行 予定
名鉄コミュニテ ィサロン植田	「勝坂式土器」を含む第一 展示室内	名鉄コミュニティサ ロン植田での古代史 開講の宣伝チラシ	2009 年 3 月

⑨当館紹介刊行物一覧

機関名	内容	刊行物名
株式会社 K&B パブリッ シャーズ	紹介文	『大人の街歩き名古屋』2008 年 8 月 1 日 刊行
中日新聞社	紹介文・写真	『東海ワクワクおもしろ館ガイド』2008 年 10 月刊行
株式会社ネオパブリシテ ィ	紹介文・写真	『るるぶ MAP 名古屋』2009 年 1 月刊行
株式会社 K&B パブリッ シャーズ	紹介文	『名古屋ベストガイド』2009 年 2 月刊行

(5) 出版活動

1. 『南山大学人類学博物館紀要』第 27 号
2. 『南山大学人類学博物館年報 2007 年度』
3. 『南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 2008 年度年次報告書』
4. 『南山大学人類学博物館オープンリサーチセンター 2008 年度年次報告書 付編 研究会シンポジウム資料』

2. 組織と運営

(1) 組織

1) 職員

館長 青木 清 (副学長 (教学担当) / 法学部教授)

担当教員 黒沢 浩 (人文学部人類文化学科准教授)

特別嘱託職員 安藤さおり (2008年9月30日退職)

木田 歩

吉田泰幸 (2008年11月1日着任)

臨時職員 吉田泰幸 (2008年10月31日退職)

林 佑 (2009年3月31日退職)

福島幸絵 (2009年1月7日着任)

2) 博物館運営委員会

委員長 黒沢 浩 (人文学部准教授)

委員 服部裕幸 (人文学部教授 / 博物館学芸員養成課程委員会委員長)

加藤隆浩 (外国語学部教授)

大塚達朗 (人文学部教授)

渡部森哉 (人文学部講師)

東 誠 (教育・研究支援事務室長)

3) 資料評価委員会

委員長 大塚達朗 (人文学部教授)

委員 加藤隆浩 (外国語学部教授)

野口博史 (総合政策学部准教授)

(2) 開館・入館者実績

①開館日数・入館者数

開館日数	入館者数 (授業以外)	団体数	団体人数
277	3,632	48	2,090

②入館団体内訳

・大学見学

日付	団体名	人数	担当課室
4月17日	麗澤瑞浪高校	23	入試課
4月22日	静岡県立袋井高校	120	入試課
5月8日	愛知県立岩倉総合高校	43	入試課
5月15日	愛知県立豊田東高校	43	入試課
5月29日	愛知県立新城東高校	40	入試課

5月30日	愛知県立尾北高校	40	入試課
6月3日	南山国際高校保護者	33	入試課
6月5日	岐阜県立各務原西高校	114	入試課
6月9日	岐阜県立可児高校保護者	30	入試課
6月11日	岐阜県立岐阜商業高校保護者	58	入試課
6月11日	飛島村立飛島中学校	38	入試課
6月17日	長野県立赤穂高校	70	入試課
6月27日	名古屋市立富田高校保護者	40	入試課
6月27日	愛知県立知立東高校保護者	70	入試課
6月30日	愛知県立千種高校保護者	58	入試課
7月11日	三重県立桑名西高校	26	入試課
7月11日	三重県立宇治山田高校	168	入試課
8月27日	豊川高校	20	入試課
9月26日	岐阜県立多治見高校	8	入試課
9月30日	長野県飯田風越高校	44	入試課
9月30日	静岡県立清水南高校	126	入試課
10月10日	滋賀県立虎姫高校保護者	24	入試課
10月15日	愛知県立刈谷北高校保護者	60	入試課
10月18日	聖霊中学校	139	入試課
10月18日	静岡県立浜松西高校	32	入試課
10月21日	愛知県立杏和高校	13	入試課
10月23日	江南市立西部中学校	24	国際教育センター
10月24日	仁愛女子高校保護者	50	入試課
10月27日	名古屋女子大学高校	20	入試課
11月5日	愛知県立中村高校保護者	40	入試課
11月5日	愛知産業大学三河高校	15	入試課
11月10日	南山高校女子部保護者	37	入試課
11月11日	岐阜県立各務原西高校	76	入試課
11月13日	愛知県立菊華高校	33	入試課
11月19日	愛知県立豊橋南高校保護者	12	入試課
12月9日	Nagle College	20	入試課

・大学行事

日付	行事名	人数
7月20日	オープンキャンパス	500

9月27日	父母のつどい	70
10月13日	体験入学会	5
3月14日	保護者のためのオープンキャンパス	12

・大学見学以外の団体

日付	団体名	人数
5月14日	名古屋大学博物館概論受講生	46
6月11日	名古屋市立常安小学校	9
6月19日	名古屋市立滝川小学校	40
6月20日	名古屋市立清水小学校	15
6月25日	名古屋市立常盤小学校	5
7月31日	東邦大学付属東邦高校	14
10月21日	神ノ倉小学校	15
10月23日	扶桑町立扶桑北中学校	12
10月23日	江南市立西部中学校	24
10月30日	江南市立宮田中学校	4
12月3日	名瀬地区高等学校社会科教育研究会	36
2月20日	緑鯉城会	63

3. 規程

(1) 南山大学人類学博物館規程

(目的)

第1条 南山大学学則第44条の2にもとづき、本学に南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）を置く。

② 博物館は、「人類学（文化資源学、考古学、民俗学および民族学を含む。）」（以下「人類学」という。）に関する資料の収集、調査、解析、収蔵、管理、保存、展示、公開などを行ない、本学の学生、職員および社会の利用に供し、教育・研究に資することを目的とする。

③ 博物館の組織および運営については、この規程の定めるところによる。

(事業)

第2条 前条第2項の目的を達成するため、博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- 1 人類学に係る調査、収集、保存、管理および解析
- 2 人類学の展示および公開
- 3 人類学に関する情報提供
- 4 人類学に関する教育研究の支援
- 5 博物館所蔵資料を利用した生涯学習の企画および運営
- 6 博物館および博物館に従事する職員の資質向上に寄与する学芸員の養成

(館長)

第3条 博物館に館長を置く。館長は副学長（教学担当）とする。

② 館長は、博物館の事業を統轄し、博物館を代表する。

(担当教員)

第4条 博物館に博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）を置く。

② 担当教員は、博物館活動の企画・運営に従事する。

③ 担当教員は、学長が指名する候補者について、大学評議会の承認を得て委嘱する。

(運営委員会)

第5条 博物館の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定する機関として南山大学人類学博物館運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

② 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(資料評価委員会)

第5条の2 第2条第1項第1号に定める収集事業を適正に遂行するために、南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「資料評価委員会」という。）を置く。

② 資料評価委員会に関する規程は、別に定める。

(規程の改正)

第6条 この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑 則)

第7条 この規程に定めるもののほか、博物館の運営について必要な事項は、運営委員会の議を経て、館長が別に定める。

附 則

この規程は、2005年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2006年7月1日から施行する。

(2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程

(目 的)

第1条 南山大学人類学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第5条にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定することを目的とする。

(組 織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 1 博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）
- 2 博物館学芸員養成課程委員会委員長
- 3 学長より指名された者若干名

② 委員は、大学評議会の承認を経て、学長が委嘱する。

③ 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- 1 博物館の予算（案）および決算（案）に関する事項
- 2 博物館資料の収集選択に関する事項
- 3 博物館関係規程の制定または改廃に関する事項
- 4 博物館の事業に関する事項
- 5 その他博物館の管理運営に関する重要事項

(議事運営)

第4条 委員会に委員長を置き、担当教員をもってあてる。

② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

④ 委員会は、特に定めのある場合のほか、委員の過半数の出席をもって成立し、出席

者の過半数をもって議決する。

⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事務)

第5条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

(規定の改正)

第6条 この規定の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附則

この規程は、2005年4月1日から施行する。

附則

この規程の改正は、2006年7月1日から施行する。

(3) 南山大学人類学博物館資料評価委員会規程

(目的)

第1条 南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第5条の2にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）において行なう博物館資料の収集に関する事項を協議し、決定することを目的とする。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

1 南山大学人類学博物館運営委員会委員2名

2 博物館長より指名された者若干名

② 委員は、大学評議会の承認を得て、学長が委嘱する。

③ 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、博物館資料の寄贈の申入れについて、南山大学人類学博物館運営委員会の諮問に基づき、その可否を審議、決定する。

(議事運営)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

④ 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。

⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事 務)

第5条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

(規程の改正)

第6条 この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑 則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、2006年7月1日から施行する。

2009年6月12日 印刷

2009年6月12日 発行

南山大学人類学博物館年報 2008年度

編集・発行人 南山大学人類学博物館

466-8673 名古屋市昭和区山里町18

TEL 052 (832) 3111 内線 5223

印刷 株式会社ウエルオン

460-0007 名古屋市中区新栄3-21-31

TEL 052 (732) 2227

NANZAN
UNIVERSITY